6-15　実践協力校における実践
事例⑮　厚木市立相川中学校
１年生　特別活動：生徒会活動

ポイントになる主な学びのプロセス

- **様々な考えから、自分の考えを構築する**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

Ⅰ　指導計画

1　活動名　　中学校　特別活動　「自分たちの力で新しい取り組みを始めよう」

2　活動の目標　　相川中学校　学校教育目標「豊かな心、学ぶ意欲、生きる力」

・集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりすることができるようにする。

【目指す子どもの姿】
・学級・学年の諸問題に対し、他者の意見を聞き、よりよい解決法を探り、合意形成をした上で、実行に移していく姿。

3　活動を通した指導計画

月	ねらい（◇）　活動内容（◆）
5月	◇学級・学年の諸問題について気づき、学級代表が委員会の時間に話し合い、その**解決法について自分の考えをもつ**。 ◆各クラスの代表者が集まる「学校評議会」を開き、学校生活を振り返り、身の周りの課題について考え、話し合いを行う。
5月	◇身の周りの課題について、生徒総会で提案するために、**様々な人の意見を聞き**、解決するために必要な準備を計画する。 ◆学級代表が、学級・学年の諸問題の解決の仕方について発表し、全校評議会（各委員会の代表が集まる会議）で承認を得られるように提案する。
6月～10月	◇全校評議会で、身の周りの課題解決に向けた取組みを提案する。その会議で出された、**少数意見や反対意見を聞き改めて自分の考えをもつ**。 ◆全校生徒に対して「アンケート」を実施し、アンケート結果から、他者の意見も踏まえ、どのように実施をしたらよいか、自分の考えを再構築する。（別紙参照）
	◇全校生徒に対して行ったアンケート結果から、**身の周りの課題についてどのような解決策があるか、考えを再構築する**。 ◆生徒会本部に提出するために、「チャイムのない日」を実行するための計画を作成する。その際、反対意見にも目を向け、合意形成を図るようにする。
3月	◇日常的な学校生活における課題について、気づき、その**解決に向けた自分の取り組みについて振り返り、次年度につなげる**。 ◆学級活動や学年集会では、学期末等の節目に、諸問題の解決のために行った活動の振り返りやアンケートを行い、その活動に対する効果と今後の課題について発表する。

ポイント1
学級・学年の問題を生徒たち自身が考え、その解決法を自分たちで考えることで、問題を焦点化し、自分たちの問題であることを実感する。

ポイント2
課題をどのように解決していくかを全校評議会で発表し、問題の自覚化と合意形成を図る場の設定をする。

ポイント3
活動後、活動の振り返りやアンケートを行うことで意味づけを行ったり、次の課題を見つけたりするなど、さらなる改善にいかす。

Ⅱ　政治的教養を育むためのポイント

【年間を通して身に付けさせたい力】
・課題を自分のこととしてとらえ、判断する力
・他者と連携・協働し、判断・調整して相手を尊重して考える力

本実践における「政治的教養を育む教育」につながる活動展開例

【活動①『チャイムのない日をつくろう！』】　　**自分や他者の意見から合意形成をはかる活動**

「チャイム着席が間に合わない生徒がいる」という課題が出され、その課題を解決するための話し合いをした結果、１学年評議員会は、「わざとチャイムを鳴らさない日を設定してみたら、みんな時間を気にするのではないか」と考え、生徒総会で提案をすることとした。

「２・３年生はできているから必要ない」「全校生徒の混乱を招くのではないか」といった反対意見もあり、生徒総会では否決されたが、「時計をみるようになる」「社会に出たらチャイムはならない」といった賛成意見もあった。

その後も意見が交わされ、「１学年のチャイム前着席に対する意欲も上がってきている。ぜひチャイムのない日に取り組みたい」「二学期も一人ひとりが時計を見て活動する習慣をつけてほしい」「再提案して、やっぱり実施したい！」という意見が多かった。**「いい取り組みだと思うけど、なぜ反対されるのだろう」**と、自分たちの考えや思いだけでなく他者の考えや思いも大切にする必要があると気付き、**「みんなにアンケートを取ったらわかるんじゃないかな」**といった話し合いがされ、「チャイムのない日」について全校生徒がどのように考えているかのアンケートをとることを提案することとなった。

全校評議会で「全校生徒が納得できるような具体的な計画」を出すよう求められたことで、反対意見を踏まえ、合意形成を図りながら実施可能な方法を模索することとなり、他者の立場になって考える場面が多く見られた。

【活動②『渡り廊下から発信しよう！』】　　**他者と関わり、考える活動**

学年評議会の活動のひとつに、「渡り廊下の整備」がある。「ここに掲示物をつくったらどうだろう。」「確かにみんなが通るし、みんなに知ってもらえるかも！」「例えば、定期試験の予想問題を作って掲示したらどう？」といった提案から話し合いがもたれた。季節の年中行事に合わせて渡り廊下のデコレーションを計画したときは、評議員が芸術部と交渉して、芸術部の作品を展示した。

評議員が自分の考えたことについて、他者の協力を得て、「自分たちの学校をよりよくしよう」という活動が進められ、学校全体のつながりをつくり、輪を広げて活動している姿が多く見られるようになった。

本活動を通して見られた子どもたちの変化の様子・その先の取り組み・成果と課題

変化・様子

今年度も評議員になった生徒は、学年評議会の活動を決めるにあたり自分たちの活動が全校生徒にどのような影響を与えるかをよく考えるようになった。また、学年評議会の活動がよかったかどうかのアンケートを評議員たちが作成して実施しており、活動をやりっぱなしで終わりにするのではなく、他者の評価をもとにして、よりよい活動を考えていく姿が見られた。

成果

評議会で学年レクの企画をするときに、担当教員からの「感染症予防の観点を盛り込むように」との指示に対して、評議員全員で意見を出し合いながら、クイズ大会やお絵かきリレーなどの身体接触を避けるレクを企画するなど、身の周りの状況について的確に捉え、課題解決に向けた計画、実践をすることができた。

また、「私はこう思うがあなたはどうか」といった会話のやり取りが見られるようになり、自分の意見を出しつつも、反対意見や少数意見を大事にし、他者の意見を取り入れる態度が身についてきていると考えられる。

課題

今回は、生徒総会で提案を否決されたことが発端となり、それでも「チャイムのない日」を実現させたいという１学年評議員が粘り強く活動を続けたことが大きなうねりとなって生徒会本部や全校生徒を動かす実践となった。次年度以降も、他者の立場になって考えたり、他者の協力を得たりしながら輪を広げて活動していく姿を大事にしていきたい。